

コロナ差別に歯止めを

松山大准教授らグループ発足



新型コロナウイルス感染に伴う差別を
解消するため、シンボルマークのシト
ラスリボンの製作に励むメンバー

＝15日夜、松山市文京町

受けにくい環境を整えよう
としている。

甲斐准教授は「感染者が差別を受け続けられれば、誰もかかったことを言わなくなり感染拡大を招く。また差別は感染者だけでなく、家族や医療従事者にも及ぶ可能性がある」と指摘した。

15日夜、松山大で開かれた会合ではメンバーがリボンの製作に挑戦したり、今後の活動を検討したりした。グループの名称は「ちよびっと19+」とし、グループのSNSができるまでメンバーが個人発信し広げていくとした。

新型コロナウイルスに関する差別が収束するまで活動を続ける予定で、甲斐准教授は「感染者が出たとしても、みんなが味方だよといえる雰囲気をつくりたい」と語った。

(宇和上翼)

よると、県内外で感染者やその家族に対する中傷が起きていることから、大学関係者や自営業者ら6人で4月上旬、グループを立ち上げたという。

愛媛のかんきつの色にちなんだ「シトラスリボン運動」と命名し、会員制交流サイト(SNS)を使って情報発信。感染者が差別を

新型コロナウイルスの感染者や家族らにかかる差別に歯止めをかけようと活動するグループが、松山大の教授や市民らによってこのほど発足した。差別の解消や防止に向けて理解を深めようと議論を始めている。

メンバーの一人、松山大法学部の甲斐朋香准教授に